

「インカム投資に関する調査研究報告書」公表

公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構
[\(http://www.nensoken.or.jp/\)](http://www.nensoken.or.jp/)

年金に関する専門研究機関である公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構（東京都港区、理事長 西村周三）は、「インカム投資に関する調査研究報告書」を公表しました。

<要旨>

従来ポートフォリオ運用において「債券」という資産クラスは、「投資元本の保全」、「インカム収入の確保」、「株式との分散効果」、「流動性」という 4 つの機能を有していたが、マイナス金利を含む低金利環境の長期化により「インカム収入の確保」という機能が大きく薄れてしまっている。

米国は既に利上げモードにあり、欧州も量的緩和の出口戦略を探る状況となっていることから、海外長期金利には上昇圧力が掛かっているが、国内における低金利環境に大きな変化は無く、投資家の「インカム資産」に対する投資ニーズは引き続き強い状況にあるが、利回りの高さにはそれに付随した何らかのリスクが存在している。

本報告書では「インカム収入の確保」という観点から行われる投資が年金基金等の投資家ポートフォリオに与える影響を考察するとともに、新たな投資対象として投資が広がっているレバレッジドローンやプライベート・デット、今後投資が拡大する可能性がある商品として、CLO と CMBS についての概要も紹介している。

※報告書は当機構 HP(<http://www.nensoken.or.jp/publication/research/>)より無料で閲覧頂けます。

【お問い合わせ】 〒108-0074 東京都港区高輪 1 丁目 3 番 13 号 NBF 高輪ビル 4 階
 公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構
 (担当) 研究部 主任研究員 樺山和也
 (電話) 03-5793-9412 (E-Mail) k-kabayama@nensoken.or.jp

《ご参考》

【利回り引き上げ策とリスク要素】

年限の長期化	金利リスク	超長期債、永久債
信用力の下方シフト	信用リスク	ハイイールド債、新興国債券、劣後債、ハイブリッド証券、バンクローン、ダイレクトレンディング、下位トランシェ他
キャッシュフローの変動容認	キャッシュフロー・リスク	モーゲージ・パススルー証券、コーラブル債他
流動性の放棄	流動性リスク	ダイレクトレンディング、プライベート・デット
非債務高配当資産	価格リスク	REIT、MLP、BDC、YieldCo、高配当株他
複雑性の容認	複合リスク	証券化商品、仕組債、仕組ローン他

出所：各種資料から年金シニアプラン総合研究機構作成

以 上